Psychosociological Development of Elderly People through Nursing Guided Autobiography Writing

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 沼本, 教子, Numoto, Kyoko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/19493

平成 19　年　2 月　20　日

博士論文審査結果報告書

学位授与番号　医博甲第 1864 号

学籍番号

氏　名　沼本 教子

論文審査員

主　査（職名）泉　キヨ子（教授）　印

副　査（職名）稲垣美智子（教授）　印

副　査（職名）坂井　明美（教授）　印

論文題名　Psychosociological Development of Elderly People Through Nursing Guided Autobiography Writing

看護支援を受けて自分史を記述することによる高齢者の心理社会的発達

論文審査結果

論文内容の要旨

本研究は高齢者が看護者の支援を受け「自分史」を記述することにより、どのような心理社会的発達と健康状態の変化を示しているのかを明らかにすることを目的とした．参加者は個人面談4名と2つのグループの参加者それぞれ4名と5名の計13名である．方法は「自分史プログラム」を月1回、合計5回の個人面談またはグループワークにおいて展開し，①参加時と終了後の感想②面談およびグループでの対話内容とその変化③プログラム開始前後に、日本語版E.H.エリクソン発達課題達成尺度および日本版GHQ28を用いて測定・評価し，どのような発達的変化を示しているのかを検討した。その結果，個人面談者はプログラム開始前後で，それぞれ発達的な変化や健康状態の改善を示した。「親密性」、「生殖性」の達成度の得点が上昇し、「うつ傾向」が大きく改善した。グループ支援ではグループ全体の変化として「生殖性」に有意な差がみられた。参加者ごとの変化では，「得点が大きく上昇した群」「中程度の上昇を認めた群」「変化がなかった、あるいは低下した群」に分かれた。グループは信頼関係が次第に形成され，相乗的な効果もあったが留意すべき視点も見出された．以上から自分史プログラムは老年期を生きる高齢者にとって健康生活を維持し、人生の統合を支える有効な看護支援になりうることが示唆された。

審査結果の要旨

この論文は高齢者が看護者の支援する「自分史プログラム」を個人面談とグループによる方法を通して，「自分史」を記述することで心理社会的発達と健康状態に良好な変化を及ぼすことを質的・量的評価から明らかにしたことが独創的であり，これからの社会に大いに活用できるものである．公開審査の質疑応答はその内容，態度は的確かつ論理的であった．以上より，本論文が博士（保健学）の学位を授与することに値するものであり，保健学における研究能力を有すると認め，論文審査を合格と判定した．